

トップ直撃インタビュー

アマンド 勝俣 勉 社長



キーコーヒーグループにおいて、洋菓子と喫茶に特化し存在感を放つアマンド。基幹の六本木店は業態の枠を越え、六本木交差点のシンボルとして知られる。ただ、高い知名度を持つ反面、期待値ほど集客できないという課題もあった。また、その業態故にコロナ禍では苦しんだ。19年に就任した勝俣 勉社長(写真)はこの2つの課題に挑み、『オールドニュー』をテーマとした六本木店60周年リニューアル(7月17日)に辿り着いた。これまでの振り返り、今後の展望を聞いた。(聞き手 石母田 豊)

——就任時に抱いた思いは
フラッグシップの六本木店は昭和〜平成前期が全盛期ではないか。私の思い出を振り返っても待ち合わせの定番だったし、ピンクを使ったデザインが六本木の楽しい雰囲気とマッチしていたと思う。ただ、社長就任が決まり、より記憶を掘り起こすと「知ってはいたけど、利用した経験はなかった」ことに気づき、知名度と消費行動にギャップがある可能性が浮上した。さらに調べると「アマンド」ピンク、待ち合わせ、

六本木」のイメージで止まってしまうっており、来店に結び付いていない事実が分かった。日本の経済、人口が上向いた間は大きな問題にならなかったが、成熟国となった今では危機的であり、何とかこの状況を脱したいと考えた。

六本木」のイメージで止まってしまうっており、来店に結び付いていない事実が分かった。日本の経済、人口が上向いた間は大きな問題にならなかったが、成熟国となった今では危機的であり、何とかこの状況を脱したいと考えた。

六本木」のイメージで止まってしまうおり、来店に結び付いていない事実が分かった。日本の経済、人口が上向いた間は大きな問題にならなかったが、成熟国となった今では危機的であり、何とかこの状況を脱したいと考えた。

六本木」のイメージで止まってしまうおり、来店に結び付いていない事実が分かった。日本の経済、人口が上向いた間は大きな問題にならなかったが、成熟国となった今では危機的であり、何とかこの状況を脱したいと考えた。

コロナ乗り越え、知名度と来店頻度のギャップを埋める

——イメージ戦略が仇となった？

「アマンド」を知ってもらおうという点において、非常に大きな貢献だったのは間違いない。「行ったことはないけど知っている」はアドバンテージであり、問題はそれを活かすに進めきれなかったことだ。こだわりの洋菓子、喫茶に誘導する術に工夫が必要だった。

——就任後、すぐコロナ禍になってしまった

同じような危機感を数代前の社長らも持っており、他社とのコラボ、メニューのブ

平時における店舗運営はコストダウンやメニュー開発、回転率などが大事だが、正直それどころではなかった。覚悟を決めて生き残りを目指した。同じ苦境にあった他の料

飲店とコラボイベントを開催したり、六本木エリアの店舗同士で助け合う動きが多かったように思う。ポジティブに捉えられる経験と言え、追い詰められて腹を括り、就任時からあった改革への想いを必ず形にしようと決意したことだ。

——六本木店リニューアルへ

24年の六本木店60周年リ



六本木店外観

もう可能性がある。そこで1階は物販のみ、喫茶スペースは2階に移管した。

——洋菓子の開発投資は意外だ

洋菓子の歴史は長く、それ故に「本場に新しいものを創造するのは困難だと言われている。常にブームがあるが、ループレしているケースがほとんどだ。しかし、だからこそ時代にあった変化、そこへの投資が必要だ。長い歴史に埋もれず残っているのは、

その通りだ。古き良き洋菓子喫茶を現代風にアップデートし、次世代ユーザー獲得を目指したい。「六本木リングシュー(テイクアウト税込600円)」など一部ロングセラーのレシピアの見直しや、「六本木アフタヌーンティー(イトイン2500円)」、「テイクアウト限定」の「六本木アフターパフェ(テイクアウト800円)」といった新たなチャレンジもしている。

——最終的に目指すべきはブランド力の向上に他ならない。繰り返しになるが「知っている」と「実際に利用する」は似て非なるもので、ブランド力は後者だと考えている。その過程で「知っている」は非常に重要なのだが。当社に必要なのは本場に試

したいと思える製品、サービスであり、リニューアルした六本木店はその中枢を担う。ただ、六本木店だけでは苦しいとも思っている。東京駅の「アマンド東京」でお土産として上手くいっている「ナポレオンパイ」のような別の角度からの攻めも必要だ。販売チャネルの拡大も検討しなければならぬ。「アマンドラボ」に着想を得て作り手が

見える喫茶も構想している。

見える喫茶も構想している。



形は大きく変わらなくてもブランド力アップを怠らなかつた企業ばかりだ。「アマンド」もそうなりたい。

——それがリニューアル

テーマ『オールドニュー』か